

原発事故は、人々の日常と地域社会を一変させました。福島県では、事故直後におよそ16万5千人が自宅を追われて避難し、現在でもおよそ10万人が避難生活を続けています。郷土なき故郷の記憶を、どのようにつなぎとめ伝承していくのか。帰還を果たしても、そこに5年前と同じものは何一つ存在しない現実。福島から、日本の今と未来を見つめます。

福島 の今

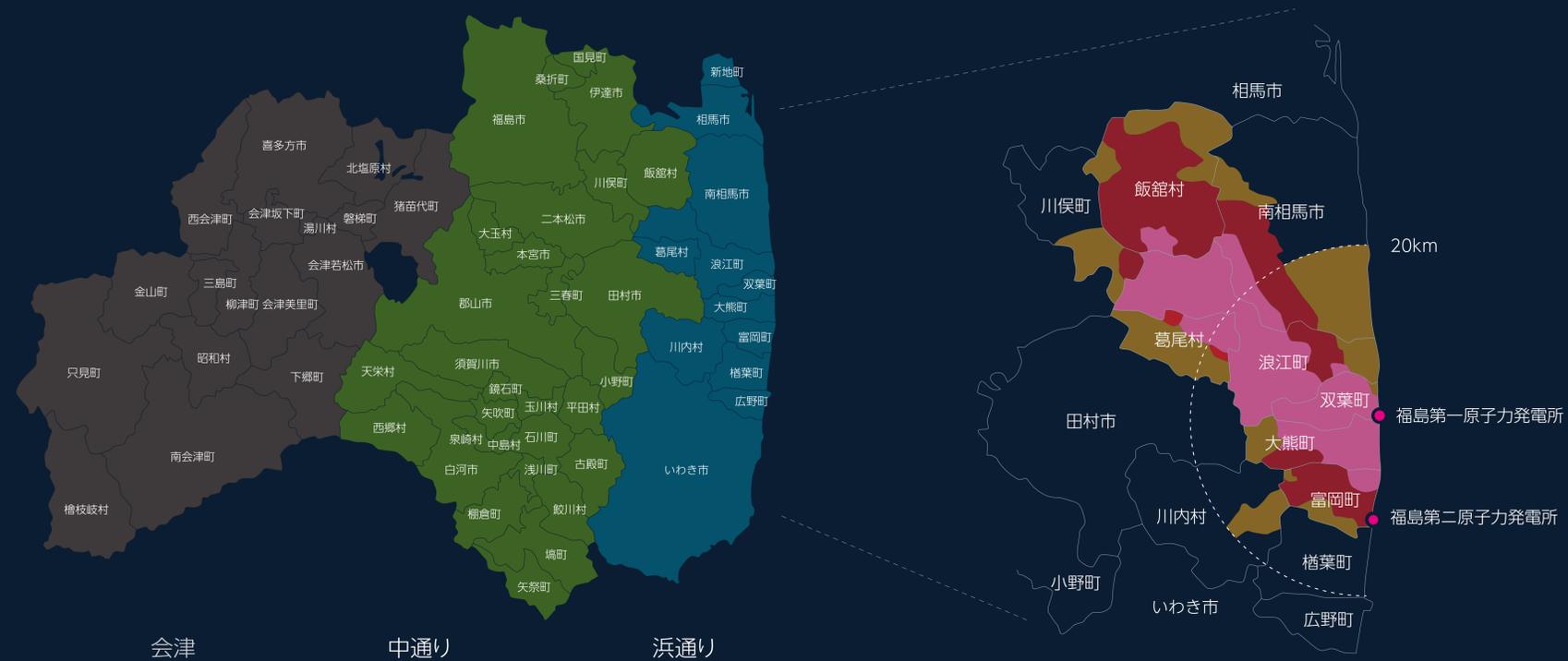
LESSON
#311

映像でみる福島の今

福島中央テレビでこの半年以内に放送された番組を順番に上映しています。

- ① ^{ひなんしじかいじょ}避難指示解除から1か月たった^{ならはまち}檜葉町 (2015年10月5日放送)
- ② ^{ちゅうかんちょうぞうしせつけんせつ}中間貯蔵施設建設で故郷の行く末は… (2015年10月28日放送)
- ③ ^{なみえまちきおく}浪江町の記憶を子どもたちへ“ふるさとなみえ科” (2016年1月13日放送)
- ④ 5年で変わったこと、変わらないこと～福島の子育てママたち～ (2016年03月14日放送)

上映時間：
各番組およそ10分



- 帰還困難区域**
放射線量が非常に高いレベルにあることから、バリケードなど物理的な防護措置を実施し、避難を求めている区域。
- 居住制限区域**
将来的に住民の方が帰還し、コミュニティを再建することを目指して、除染を計画的に実施するとともに、早期の復旧が不可欠な基盤施設の復旧を目指す区域。
- 避難指示解除準備区域**
復旧・復興のための支援策を迅速に実施し、住民の方が帰還できるための環境整備を目指す区域。

2015年9月5日時点での避難指示区域の状況

(出典：ふくしま復興ステーション)